

情報文化 学生瓦版

2015年2月23日
第40号

発行 情報文化学科
社主 讃岐三白 松村
編集長 佐藤 シンザ
顧問 イツモカケアシ 玉田
神部 タヨリガイ
八木 イクメン
石橋 オリオンザ
海老原 オウソウザ
増田 オヒツジザ
澤田 カニザ
超学生 古里 ホーホケキョ

千葉		12	4
東京		12	5
長崎		15	2
香川		13	2
静岡		11	5

囲碁 大学囲碁交流会
市ヶ谷の日本棋院で大学囲碁交流会が開催された。1対1の自由対局や連碁を通して沢山の学生と交流を深めることが出来た。博物館も見学し歴史にも触れることが出来た。 2面

春課題は計画的に!

白熱の大学囲碁交流会

〜みんなでロジカルシンキング〜

2月17日、大学囲碁交流会が東京都市ヶ谷にある日本棋院本院にて開催された。本学科からは5名の学生が参加した。情報文化学科では「ロジカルシンキング」という論理的思考を養うために囲碁の講義が行われている。日本棋院に在籍しているプロ棋士の三村芳織先生と長島梢恵先生より半年間ご教授頂いている。日本棋院は本学の教員ならず様々な大学で囲碁の講義を開いており、今回のイベントは他大学と囲碁を通じて交流する事を目的としている。

プログラムは自由対局、日本棋院見学、チーム戦による連碁と盛りだくさんであった。

【石橋】
自由対局で一橋大学の学生と対局をした。授業であまり勝った経験がなく、交流会に参加するのは有名な大学ばかりと伺っていたため、とても不安に思っていた。しかし、授業で習ってきたことを思い出しながら、時に勇気を出して相手に攻め込み、勝利することができた。私にとっては奇跡のような思いで、感極まった。またこのような機会に参加させていだきたい。



囲碁を通しての巻



【海老原】
私は、自由対局で一橋大学の人と対局をした。途中まではとても順調で勝てそうだったと思っていたのだが、後半一気に押されてしまった。結果は40目半という大差で敗北してしまった。敗因としては、相手が攻め込んできた際に動揺してしまい上手く守ることが出来なかった。さらに守るタイミングを間違ってしまったことだ。囲碁には冷静な心と判断力が必要だと実感した。



【澤田】
幽玄の間を見学した。幽玄の間は最も強い棋士が対局に使う部屋のことである。そこにあった碁盤はとても立派なものだった。高級な質の良い材料で作られた碁盤は打ち込んだ時に出来るへこみは時間が経つと直るといふ。木材のしなやかさにも驚いた。幽玄の間には川端康成



【佐藤】
最後にチーム対抗で連碁があった。チームは学生5人とプロ棋士の編成で、アドバイスを得ながら交代で1人3手ずつ打っていくルールだ。打っている間はアドバイスを聞くことが出来ないため、展開に合わせてうまく立ち回ることが要求され、とても難しかった。この連碁は今、中国でチームになっており、今後正式に競技化することになる可能性があるという。最先端の囲碁を体験することができ、とても良い経験となった。沢山の貴重な体験をさせていただき、とても勉強になりました。このような機会を設けて下さった先生方、日本棋院の皆様感謝申し上げます。



の際、名人の助言のもとで打ち、相手を激怒させたことがあるという話が出た。囲碁のマナーの大切さを改めて実感した。また、現在の一番強い人と昔の一番強い人のどちらが強いのかという話では、どちらが勝つかわからないということにとても驚いた。

の書いた「深奥幽玄」の掛け軸がある。しかし、それは盗難防止のためレプリカで、本物は地下の資料館にある。一流の人たちが命懸けで対局する部屋を見ることができ、身が引き締まった。

【白声黒語】
囲碁の総本山である日本棋院の本院は、東京都千代田区市ヶ谷にある。今回の集合はお昼時。ランチタイムのサラリーマンでどっさり返している都会の下町中である。▼そんな市ヶ谷駅にあったのは、多数の囲碁に関する広告と床には碁盤のモザイクアート。囲碁がこの地域と密着していることが感じられた。まさに囲碁の街である。▼日本棋院の1階エントランスにて我々が待機していると、講義で大変お世話になった三村先生、長島先生が、声を掛けて下さった。周囲の人達は我々のことを、女流棋士と話す有望な若手と見たに違いない。少し鼻が高くなった。▼そう思っていたのもつかの間、大学囲碁交流会での我々の対戦成績は芳しくなかった。学内での成績が多少良くても、上には上がいるということを痛感させられた。何事も上を目指して取り組まなければならないと感じたよい経験であった。(佐藤シンザ)

日本の囲碁を代表する
日本棋院

囲碁で繋がる輪
楽しくロジカルシンキング